

2021（令和3）年度 学校自己評価表

飯田女子高等学校 通信制課程

学校教育方針	中・長期目標	次年度への課題
<ul style="list-style-type: none"> ・本校は、教育基本法並びに学校教育法に則り、新しい時代に相応しい健全な家庭人、有能な社会人として、教養豊かな女性教育を育成することを目的とし、特に仏教精神を基盤とした情操道義の教育に重点をおく。 ・建学の精神「うつくしく生きる」を基とした教育活動を行う。浄土真宗の教えに基づいた仏さまの教えを通して「大切にされているわたしに目覚めているのちを輝かせる」教育活動を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのちの教育」「こころの教育」を理念に据え、「人間力」を養い「学力向上」を実現する教育を実践する。 ・通いたくなる学校、安心して学習ができる環境をつくり、社会の一員として「生きる力」を育む。 ・地域から愛され、選ばれる学校になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての学校の活動（添削指導・授業・行事・特別活動など）において建学の精神を基とした活動が実践できるように、教職員の共通理解と意思の疎通、研修等を図っていく。 ・不登校経験者や転入学者、新たな教育的ニーズを有する生徒、また特別の配慮を必要とする生徒など多様な生徒が在籍している。教職員間の情報交換を密にし、共通理解に努め丁寧な指導を心掛ける。 ・本校通信制の様子をより知ってもらうために、学校 Web サイトで情報を効果的に発信していく。また、地域の人々とのかかわりが持てる機会を作っていく。
	今年度の重点目標	次年度への課題
	<ol style="list-style-type: none"> 1 「いのちの教育」「こころの教育」を通してまわりからの「働きかけ」や「いのちの尊さ」に眼を向ける。 2 生徒の力を引き出す授業・指導・支援・声掛けを工夫し、学力を定着・伸長する。 3 安心・安全な学校をつくり、学校が「居場所」になるようにする。 4 開かれた学校づくりを推進し、家庭・地域との連携・協力をする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 新型コロナウイルス感染症の影響を受けることは明らかだが、次年度は3年に一度の東本願寺研修（本山研修）実施の年にあたる。早い段階から準備を進め、本山に行くこと、また研修に参加することで、生徒がより自身と向き合える契機とする。 2 基礎学力の定着を図る添削指導や授業を心掛け、自学自習の学びが身に付けられるようにする。 3 生徒と教職員間の関係を良好に保ち、不安や悩みを持つ生徒が安心して相談しやすい雰囲気を作る。それとともに生徒数増に伴う教室の整備をしていく。 4 家庭との連携を深めるとともに、地域の方々との連携による学習活動を工夫して地域理解を深める。

【達成度 A：ほぼ達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：不十分】

分野	重点項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善・向上策	
全般	建学の精神	1	学校生活（授業・行事・特別活動など）において、建学の精神を基とした活動ができたか。	B	<p>コロナ禍ではあったが感染症予防対策を徹底し校長講話・釈尊降誕会・報恩講・特別活動、ホームルームを実施。これらを通して自己と向き合う機会を持てた。</p> <p>全日制と同じ会場・同日に実施する宗教行事については、全日制的の日程が優先されるため会場・日程を含めて年度当初に教頭間で検討を要する。</p>	<p>コロナ禍ではあるが感染症予防対策を徹底し実施していく。</p> <p>釈尊降誕会については、全日とは別会場を実施する。</p>
	基本：BASE	2	普段から B（勉強）A（挨拶）S（掃除）E：（顔）を意識し、学校生活を送ることができたか。	B	<p>概ね良好である。掃除については、第4時限目が終わった後、残れる生徒で協力し合って行ったが、電車の時間の関係で参加できない生徒が多く掃除の徹底ができていない。</p>	<p>職員からも積極的に挨拶や声掛けを行う。また、全体で掃除をする時間を作るなどの工夫をし、美化に取り組む姿勢を育む。</p>

全般	南無阿彌陀仏の教え	3	「私にかけられた願い」に気づき、感謝の心を持って、生き生きとした生活を送ることができたか。	A	釈尊降誕会・報恩講などの宗教行事、仏教の授業を通して、「尊いのち」をいただいて生きているということに眼を向ける機会を持った。お互いを育てあう「いのちの働きかけ」にまでは理解を深めてはいないが、生徒が何かを感じるきっかけにはなっていると感じる。	これからも「大切にされているわたしに目覚めていのちを輝かせる」教育活動を丁寧に実践していく。
学習指導	教育課程	4	生徒の実態に即して新教育課程の編成およびレポート作成ができたか。	B	来年度より年次進行される新学習指導要領の実施に向け教育課程の編成が完了した。また三観点別学習状況の評価を意識してレポートを作成したが、次年度運用にあたり評価の在り方を考えていく。	旧課程と新課程が混在する数年は、丁寧に運用していく。
	添削指導および授業の工夫・改善	5	添削指導や授業において、わかりやすい説明を心掛け、生徒の興味関心を引き出すことができたか。	A	88%の生徒がわかりやすいと肯定的にとらえている。保護者の約87%が適切であると応えている。 添削指導では必ずコメントを記し、また授業においては、生徒の学力に応じて説明を工夫した。ただ、小学校から不登校の生徒が多く基礎学力がないため勉強への苦手意識があり主体的に取り組めない教科もあった。体育は多くの生徒が主体的に参加できた。	生徒の興味関心を大切にしながら基礎学力の定着を図る添削指導や授業を心掛け、自学自習の学びが身に付けられるようにする。教育のデジタル化（ICTの活用）を検討していく。
		6	個々の生徒の単位修得につなげられるよう、指導内容や指導方法の工夫、改善を図ることができたか。	A	昨年度は新型コロナウイルス感染対策のための休校に備えて、全員週1日通学型にし、希望者にはレポート学習の日を設定して実施したが、今年度は感染症対策を徹底して週1日通学型と週3日通学型を実施し、個々の生徒の希望に合わせて実施できた。しかし、週1日通学型を経験し、その形で単位修得ができた生徒の多くが、今年度も週1日通学型を選択した。 自習室には複数のサポート教員を配置し生徒の質問に応えられるような体制にした。	通信では、教員からの対面による指導を受ける機会が限定される。授業がないと登校しない生徒が多い。そのため空き時間に学校で自習に打ち込み、サポート教員に質問できるような時間割の工夫をする。
		7	生徒が計画的に学習を進められるよう学習意欲を喚起するための情報発信や支援ができたか。	B	生徒の学習進行状況を確認できるようにメール配信を適切な時期に行い、レポートの提出につなげた。	登校時の学習の機会を有効に利用するように促すなど個別の学習支援を充実していく。
	家庭との連携	8	学校からの情報を適宜発信し、家庭との連携を密にして学習状況を共有できたか。	B	生徒の学習進捗状況についてメール配信や保護者懇談会を通して情報提供を行った。ただし配信メールを見ていない保護者もいて、意思の疎通が図れない時があった。	保護者との連絡を密にし学校方針を理解していただく。
生徒指導	集団生活のルールとマナー	9	学校生活を送るうえでふさわしい態度やマナーを身に付けさせることができたか。	A	94%の生徒が校則やきまりを守っていると答えている。授業時や自習室利用時の取り組む態度や姿勢はよい。様々な不安や悩みから頭髪を染める生徒がいたが、話を聞いてすぐに直した。	まわりへの思いやり気配りができるように促していく。

生徒指導	安心・安全な学校づくり	10	生徒の変化を見逃さず初期対応が適切にできたか。	B	心身に問題を抱えた生徒が安心して学校生活を送れるように丁寧に指導した。 様々な不安や悩みから言動に変化が見られる生徒に対しては、声掛けや個別面談（対話）を通して心の安定を図った。また、別室の利用を促した。	生徒の変化に気づき、適切な対応を図る。早期発見と予防に努め、声掛け、個別面談を実施していく。
		11	個々の生徒が抱えている課題を共有し、生徒の心の安定をはかる適切な支援ができたか。	C	「わからないことや心配事など先生に気軽に相談できる」に対しては52%が肯定的だが、26%が否定的である。相談しやすい雰囲気作りが必要と考える。 不登校経験者や転入学者、新たな教育的ニーズを有する生徒、また特別の配慮を必要とする生徒など多様な生徒が在籍しているため、教職員間で生徒に関する情報交換を行い共通理解に努め、丁寧な指導を心掛けた。ただし非常勤講師との連絡が不徹底で生徒の困り感を共有できない時があった。 様々な課題を持った生徒が入学している現状の中で、生徒対応について専門的な知識や指導が必要な場面が増えてきている。それぞれの生徒にとって適切な指導や支援ができるよう教員へのサポート体制や研修が必要である。	生徒と教職員間の関係を良好に保ち、不安や悩みを持つ生徒が安心して相談しやすい雰囲気を作る。 教職員間の情報交換を徹底する。 スクールカウンセラー利用の調整や声掛けを行う。 必要に応じて専門機関等と連携した組織的な支援体制を構築していく。 成人年齢の低年齢化に伴い規範意識を育成する最後の機会ととらえ、心の教育を大切にする。
		12	家庭との連携を密にして、学校教育に対する理解を深めることができたか。	A	年2回の懇談会に加え、必要に応じて保護者との面談を行い生徒への支援につなげた。本校の校則や決まり事など保護者の約98%が納得しており、また保護者の97.6%が安心して通わせることができると答えているので、概ね理解していただいているものと思われる。	コロナ禍にあって「保護者との集い」はできないが、できうるかぎり保護者との面談をはかり生徒への支援につなげる。
進路指導	進学・就職指導の充実	13	個々の進路希望を把握し、本人の希望・適性にそった指導ができたか。	A	生徒の社会的・職業的自立に向けて個々に指導をした。保護者の83%が適切であるととらえている。 【卒業生26名の状況】 4大：3名・短大：1名・専門：9名 就職：2名・家居：11名	通信制では、多様な生徒の特性をふまえた進路指導が必要なため一律の全体指導は難しい。そのため個々に応じた丁寧な指導を心掛けていく。外部の様々な機関との連携を密にし進路実現のための指導をする。

進路指導		14	進学や・就職に関わる情報を適切に伝えることができたか。	B	ホームルーム教室や事務室の掲示板に進路イベントの案内や進路関係の書類を掲示し、生徒に伝わりやすいように工夫した。 全日制の図書館を利用する生徒も増えてきている。また、全日制の図書委員会が発行した図書新聞が定期的に通信の生徒にも配布され、図書への興味関心をもつ機会が増えている。	進路情報の充実・精選を図り、実情にあった内容の提供をする。 図書館利用の案内を声掛けし生徒が書物に触れる機会を増やす。
		15	進路ガイダンスを通して、自分自身について考え、進路意識を高めることができたか。	B	ハローワーク飯田就職支援ナビゲータや飯田女子短期大学広報課入試事務局など、効率的な外部講師による講話の実施や、本校全日制進路指導主事および就職担当の職員によるガイダンスなど、複数回実施した。参加者が少ないので進路に対する意識づけのためにガイダンスを見直していく。	段階に応じた進路講話、情報の提供により生徒の進路実現につなげていく。内容は実際の進路活動に活かすことができるもの・自己実現につながるものを意識して企画運営する。また、卒業年度においては早めに対応する。
		16	模擬試験や検定試験などの案内を行い、実施後の効果的な振り返りを行えたか。	B	事務室の掲示板に案内を掲示し、生徒に伝わりやすいように工夫した。	実施後の振り返りについては不十分であったので、効果的な振り返りができる体制を整えていく。
特別活動	特別活動の内容の充実・改善・実施	17	生徒が興味関心を持ち、主体的に学べる特別活動が実施できたか。	B	「ハーバリウム体験」・「三六災害を振り返り今に活かすまちづくり」・「映画観賞」を実施。また、新型コロナウイルス感染の影響を受け小旅行中止の代替として、「スポーツ交流会」・「そらさんぽ 天竜峡のトレッキング」を実施した。多くの生徒が参加し交流の場となった。72%の生徒が前向きに取り組んでいると答えているが、人と関わることに苦手な生徒でも参加しやすい活動を計画するとよいのではないか。	コロナ禍で制限はあるが、感染症対策を徹底し、できる範囲で、さまざまな活動を計画・実施していく。 人間性を育む場面となる校外学習や行事の充実を図る。
		18	特別活動の内容は適切であったか。	A	特別活動へは、生徒が主体的に参加している。参加人数も増えているので適切であったと思われる。	生徒が主体的に参加し学べる特別活動を計画・実施していく。
学校運営	円滑な学校運営	19	学校全体の教育活動が円滑に進むように全日制課程との効果的な連携を図ることができたか。	A	通信制で授業や行事がある時には、全日制の生徒が入室したり騒いだりしないようあらかじめ伝え大きな支障はなかった。また、全日制的進路指導主事および就職担当責任者が生徒にガイダンスを行うなど連携できた。	全職員が全日と通信の兼務であるが、実際、通信の授業を担当していない場合、なかなか通信への理解は深まらない。そのため、職員会等を利用して通信への理解を深めていく必要がある。

学校運営	20	生徒のデータ管理と正確な資料作りにより、校務と各指導を円滑に進めることができたか。	A	マイクロソフトのクラウドアプリの利用により職員の連携、生徒のデータの管理と共有・編集などができている。出席状況、レポート提出・合格状況が把握でき、必要に応じて担任や職員が指導に活かしている。また、アセスメントシートへの入力・閲覧により情報共有もできている。	一部の職員に負担がかからないように改善していく。 アセスメントシートへの入力を適宜行う。	
	21	校内施設・設備の不備を点検し、安全で学習しやすい環境づくりのため、改善を図ることができたか。	A	1階トイレを全て洋式トイレ(温水洗浄便座)とトイレ内の手洗い場を自動水洗(感染予防)にした。他にも生徒数の増加に伴い、スクーリングで使用する教室を一部増やし、倉庫を改装し更衣室を設置した。	在籍数が増えるため、1教室ホームルーム教室を用意する。	
	22	生徒募集・学校説明会を工夫して本校の魅力を発信し、志願者を増加させることができたか。	B	本校通信制進学説明会を校内で実施。その他、中学校を通して学校見学および個別相談を随時受け付けた。不登校生徒をかかえる保護者の不安は大きいため、保護者のみにも対応した。 県教委南信教育事務所主催の「不登校生徒の進学相談会」が2回開催され、飯田会場にブースを設け対応した。中学1,2年生の参加もあった。	多様な生徒を受け入れている通信制へのニーズは高まっている。本校通信制の学びの特徴について周知していく。 コロナ禍により不登校生徒数は増加傾向にある。その多くはできるなら全日制で学びたいと考えている。その現状を踏まえ中学生および保護者の不安に寄り添える進路相談を心掛ける。	
	開かれた学校づくり	23	ホームページに掲載する内容の工夫改善を図り、わかりやすい情報を提供できたか。	C	ホームページで多様な情報を見やすく公開した。	本校通信制の様子をより知ってもらうために、学校Webサイトで情報を効果的に発信していく。
		24	保護者や地域との連携強化を図る取り組みを行うことができたか。	B	保護者へは生徒を通じて紙媒体によるものに加えメールに添付して配信したので保護者との連携はできたと思われる。しかし、地域との連携・交流は十分とは言えない。	コロナ禍により地域との連携は難しいが、地域の方に来校していただき講演していただくなど生徒の学びを深めるなどの連携を図る。特に総合的な探究の時間においては、地域の方の協力を得られると学びがより深まると考える。